

大志

山岡中学校だより

令和6年度 4月末号



恵那市山岡町下手向 182-4 TEL 26-6882

自分らしく志を抱いてほしい

校長 後藤 琢磨

「少年よ、大志を抱け。」これは、アメリカの教育者クラーク博士が札幌農学校を去る時に学生に残した言葉です。

この名言に奮い立ち、昭和・平成を元気に生き抜いてきた若者が多くいらっしゃると思います。大志という言葉には、「世のため人のために自分の力を最大限発揮するんだ。」という高揚感を感じます。

しかし、中学時代は学校という特殊な空間に閉じ込められ、世の中がどうなっているのか本や映像などで間接的に理解することがほとんどです。それなのにどうやって大志を抱けばよいのでしょうか。

その昔、私が中学生の頃、様々な人とメディアの影響を受け、将来を夢見ました。

「プロ野球選手になりたい。」野球仲間とともにいざ野球部に入ると、苦しい走り込みと激しいノックの雨に、こんな練習なんてもうたくさんと思うようになりました。

「相撲取りになりたい。」美しい化粧まわしと大量の懸賞金に目がくらみました。しかし、巨体を作る苦しさや上下関係の厳しさをテレビで知り、気持ちはなえませんでした。

野球選手と力士、2つの夢を追いつつ中途半端に太った私は、さらに、歌手、俳優、お笑い芸人、郵便屋さんなど、多くの夢に目移りし、そして、消えていきました。

結局、最終的に教師の道を選びました。その理由は、いろんなことに目移りする自分は教師に向いていると思ったからです。おもしろそうなことは何でもやってみて、挫折し、また次の夢を探すのは実に楽しく、それを子どもたちに伝えたいと思いました。

多くの人は、おそらく幼少期の夢を実現していないでしょう。大谷翔平選手のように、同じ夢を抱き続け実現できた人はごくわずかです。中学生の多感な三年間は、大谷選手のような大志を抱くのもよし、夢に目移りするのもよし、夢が見つからないと泣くのもよしです。自分らしく志を抱いてください。

私は、人生の入り口で世の中をつまらないと思わせたくないのです。「学校には、おもしろい授業があり、好きな仲間や先生がいて、新鮮な何かを発見できる。それが世の中に出るともっとたくさん見つけれられるぞ。」そう予想して、新入生 27 名を加えた 77 名の生徒全員が元気に卒業していくことを強く願っています。

保護者・地域の皆様、どうぞよろしくお願いします。

